

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部義肢装具学科
名前 村原 伸
作成日 2024年3月4日

【責任】

義肢装具学科に所属し、専門教育分野の基礎科目（解剖学、基本工作論、装具学）を中心とした教育活動、ゼミ生の研究支援や就職支援を行なっている。

【理念】

学生には、義肢装具学科での学びを生かして、患者や家族に信頼される専門家になってもらいたい。そのためには、知識・技術、人間性、社会性の涵養が重要である。

知識や技術があるからこそ、患者の機能回復や健康の向上、家族の安心、疾病にともなう様々な困難を和らげることに関わることができる。同時に、それらは人と人とのやりとりのなかで実践されるものであり、根本には、困っている人を支えたいという温かい心、人間性が必要である。この二つがあることで、患者から「この人になれば相談できる」といった信頼が得られると考えている。また、病院や地域医療において、多くの医療福祉関係者が連携して患者に関わっていることを理解したい。患者利益のためには、義肢装具士は他の医療専門職と連携を図ることが重要であり、在学中は、学業だけでなく、学生生活全般を通じて社会性も養って欲しい。

国家資格取得後も、医学が日進月歩で進歩することを理解し、よりよい医療を提供できるように、知識や技術を継続的に向上させる生涯学習に取り組んで欲しい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、学習場面においては「学習動機への働きかけを行なう」、「基礎力の涵養を重視する」および「継続学習の重要性を伝える」という方針で教育活動を行なっている。また、学習場面だけでなく、日常生活の小さな事柄への心の使い方で「人間性」や「社会性」が磨かれると考えており、これらの涵養も広い意味で教育活動の方針に含めている。

「学習動機への働きかけを行なう」

- 個人的な体験者でない限り義肢装具士が働く姿を目にする機会はまれなので、TS 筆者の担当科目だけでなく、フレッシュマンセミナーなどの導入教育のなかで、学習動機に働きかけるのは重要だと考えている。有資格者が比較的少ない医療専門職であり、学生にはその役割に誇りをもってもらいたい。
- 義肢装具士教育に必須の解剖学は、医学の基本でもあり、1774年の解体新書の刊行に始まり、森鷗外の子供の森於菟などの先人の奮闘の賜物である。教材には、多くの人命・人生と共に発展してきた医学の歴史が詰まっていることを指摘している。とくに、骨格標本を用いた骨学実習においては、献体など篤志に支えられていることを自覚させ、真剣な態度で学ぶように指導している。

「基礎力の涵養」

- 解剖学は医学の海図のようなものであり、身体の正常構造と機能は、疾病の理解と機能回復の目標となることを意識させて指導している。専門用語は、理解のうえで定着させなければ、無意味な文字列の暗記になってしまうので、骨学実習や学生同士での触診を通じて、「形」と「ことば」とを結びつけることを促している。また、専門用語の正確な定着のために小テストを毎回実施し、採点では、どこが誤っているのか赤ペンで指摘のうえ返戻している。基礎を誤って定着させると、修正が困難になるため特に気を使っている。なお、授業の出欠では一人ひとり名前を呼んで、顔を見て確認している。赤ペンを入れる際に学生の顔を思い出し、コメントの仕方を考慮している。

「継続学習」

- 小テストは、初めのうちは大きな負担に感じる学生が多いが、継続することで専門用語間の構造が見えてきて、それが身体構造の成り立ちと一致していることに気づき、定着が容易になることを体験する機会が多い。継続学習の効果として実感させることが、卒業後、より良い医療を提供するために、知識や技術を継続的に向上させる生涯学習に取り組む素地になると考えている。
- TS 筆者自身も、学生が将来出会う患者に授業内容が少しでも役立って欲しいと考えており、新しい知識の吸収等の自己研鑽を心がけている。

「人間性や社会性の涵養」

- 「人間性」や「社会性」は、日常の生活の小さな事柄への心の使い方と指摘している。一例として、実習後の清掃作業では、その時点での学生の「人間性」や「社会性」が現れていることが多い。患者の困りごとと気づく力は、実習室の汚れや乱雑に気づく力と無関係ではないと考えている。
- 担当授業では、グループワークや教え合いといった活動のなかで、共感、傾聴、連携等の必要性を体験的に学ばせている。
- また、重要な社会のルール・モラルを実践的に伝えるというねらいもあり、TS 筆者は、授業の開始時刻を守ること、授業の開始・終了時にあいさつ（礼）をすること等を実践している。
- 礼に関しては、TS 筆者が義肢装具士養成校在学中、高名な医師の授業を受けた際、その先生が授業前後に深々と頭を下げてくださいったことも影響している。あとで伺ったところ、「皆さんが将来出会う患者さんに頭を下げているのよ」と明かしてください、TS 筆者の教育姿勢の根幹のひとつとなっている。

【成果・評価】

- 2022 から 2023 年度の基礎解剖演習Ⅰ、基礎解剖演習Ⅱの授業アンケートにおいて、「この授業に意欲的に取り組んだ」という問いに対して「そう思う」と「非常にそう思う」の合計は約 70%であり、そのうえで、授業の工夫や準備に関する問いに対して約 80%の学生から前向きな評価を受けた。ただし、アンケート未回答者もいたことから、より多くの声を聴くことで改善につなげたいと考えている。

【目標】

- （短期目標）解剖学用語の英名の習得について、取り組み自体を放棄する学生が増えてきており、必要性の指導に苦慮している。義肢・装具の処方権をもつ医師は、日本語だけでなく英語で医学教育を受けており、義肢装具士がカルテ等を読む際、解剖学用語の英名の知識が大いに役立つ。また、義肢装具学の用語体系は、解剖学や運動学といった基礎医学の用語を基盤としており、海外の義肢装具学の学術雑誌をひもとくきっかけともなるものである。語源など記憶のヒントになる話題を交えて、解剖学用語の英名の習得にも関心を持って取り組むように指導したい。
(2025 年 1 月)
- （長期目標）義肢装具士に必要な知識を主とする解剖学関連書籍の執筆に関わりたい。

以上